

下野市立緑小学校

1 学校課題

(1) 研究テーマ

「共に学び合い、高め合い、認め合う児童の育成」

～自己有用感を高め、意欲的に活動する児童を育む道德教育をめざして～

(2) 研究構想図

学校教育目標
自ら考え、主体的に行動できる心豊かな子どもの育成
かしこく やさしく たくましく

目指す児童像と具体目標，本年度の努力点

	かしこく	やさしく	たくましく
児童像	学び合う子	思いやる子	きたえる子
具体目標	確かな学力の育成	豊かな心の育成	生きぬく力の育成
本年度の努力点	◎聴き合う授業づくり ◇学ぶ楽しさを実感する授業	◎認め合う仲間づくり ◇ふれあいの喜びを実感する学年・学校行事	◎鍛え合う心と体づくり ◇健康で豊かに生きる喜びを実感する学校生活

□前年度のサブテーマ

自己有用感を高め、意欲的に活動する児童を育む特別活動をめざして

□児童の実態

①基礎・基本はよく身に付いている。
②学習への関心・意欲が低い傾向にあり、自信を持って学習に取り組めていない児童が見られる。

□今日的な教育課題

①児童の自然体験や社会体験の機会減少によるコミュニケーション能力や人間関係をつくる能力の育成不足。
②学ぶ楽しさを実感する「学習への関心・意欲・態度」、自分のことが好きという「自己肯定感」、自分は役立っているという「自己有用感」が低い。

学校課題研究テーマ

「共に学び合い、高め合い、認め合う児童の育成」

～自己有用感を高め、意欲的に活動する児童を育む道德教育をめざして～

□研究内容

- (1) 授業での学び合いを通して、自己肯定感・自己有用感を高める指導の工夫をする。
 - ①S & U コラボ事業をはじめとした公開授業で実践する。
 - ②共同訪問や事前授業等を活用して、一人一研究授業の形で全員が実施する。
- (2) 活躍の場を増やすことで自己有用感を高めていくという視点で、諸活動の見直しをする。
- (3) 実態調査
 - ①QU調査
 - ②学力検査CRT
 - ③全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査
 - ④学習意欲調査
- (4) 研究のまとめ
 - ①成果と課題の確認
 - ②市教育研究所等の研究紀要の作成
 - ③次年度へ向けて

2 研究計画

- (1) 低・中・高学年ブロックに分かれて研究チームを作り，S&Uコラボ事業をはじめとした公開授業や共同訪問，一人一授業の指導案検討を通し，研究テーマに向けての研究を進める。
- (2) 児童の活躍の場を増やすことで自己有用感を高めていくという視点で，諸活動の見直しをする。
- (3) 実態調査及び環境整備を行う。
 - ① Q U 調査
 - ② 学力検査 C R T
 - ③ 全国学力・学習状況調査，とちぎっ子学習状況調査
 - ④ 学習意欲調査

※本校の実態，特徴を把握し，日々の学習指導，生活指導に反映させていく。
 ※集団だけでなく児童一人一人の把握に努め，より良い学習環境の整備に努める。
- (4) 研究のまとめ（1～2月）を行う。
 - ① 成果と課題の確認
 - ② 次年度の課題検討

3 研究内容

- (1) 研究授業等の実践

	学年	学期	教科等	「単元名」・題材名・学校課題との関連・指導者
S & U コ ラ ボ 事 業	6	1	道徳	「くじけずに努力する強い意志」（希望・勇気・不撓不屈） ○友達の多様な考えに触れながら自分を振り返り自己の道徳的価値を高めるために，小集団で話し合ってから考えをまとめさせた授業。 ・指導者：宇都宮大学教育学部教授 松本 敏先生
	1	2	道徳	「しんせつのたいせつさ」（思いやり・親切） ○ソーシャルスキルを行い，児童が興味をもって友達の意見を聞いたり，自信をもって発表したりすることを目指した授業。 ・指導者：宇都宮大学教育学部教授 久保田 善彦先生
	3	1	道徳	「よく考えて節度ある生活を」（節度・節制） ○児童一人一人が自分の考えをもち，その考えを伝えることができるようにさせるために，小集団での役割演技を取り入れた授業。 ・指導者：宇都宮大学教育学部教授 久保田 善彦先生
人 1 研 究 授 業	1	1	道徳	「しんせつのたいせつさ」（思いやり・親切）
	2	1	道徳	「相手の本当の気持ち」（思いやり・親切）
	2	2	道徳	「相手の本当の気持ち」（思いやり・親切）
	3	2	道徳	「よく考えて節度ある生活を」（節度・節制）
	4	1	道徳	「いつでもどこでも」（礼儀）
	4	2	道徳	「いつでもどこでも」（礼儀）
	5	1	国語	「千年の釘にいどむ」
	5	2	算数	「商と分数」
	6	2	算数	「分数のわり算」

- (2) 児童の活躍の場を増やすことで自己有用感を高めていくという視点での諸活動の見直しを，学年や学校で行い実践した。

4 本年度の成果と課題（S&Uコラボ事業に関する研究授業を中心に）

- (1) 成果
 - ① 全体会では，グループでワークショップを行うことで，活発に意見交換をすることができた。（グループを毎回変えたり，付箋の活用，司会や発表の役割を交代で行ったりしたことも効果的だった。）
 - ② S&Uコラボ事業や共同訪問で多くの道徳の授業を行い，全職員で充実した研修を行えた。（ペア学習やロールプレイを取り入れることは，児童の多様な思いや考えを持たせるのに有効であった。）
- (2) 課題
 - ① ソーシャルスキルや役割演技を取り入れたことで，その効果とともに検討すべき点も明らかになった。指示の出し方や実施場面等，さらに研修を深めていく必要がある。
 - ③ 児童の実態⇒重点項目の決定⇒資料の決定という作業を，定期的に，丁寧に行っていく必要がある。